にじいろ通信

令和６年 12 月号

キッズケア青い鳥のWEB予約と事前登録はこちらから

マイコプラズマ肺炎 長引く咳

11月に入り、9月から10月にかけて大流行した手足口病は姿を消し、マイコプラズマなどの呼吸器感染症が目立つようになりました。全国的にマイコプラズマ肺炎は8年ぶりの大流行となっているそうです。マイコプラズマ肺炎にはいくつかの特色があります。

①子ども(主に学童児)や若年成人がかかりやすいこと　②無症状の人から肺炎を起こす人まで症状に幅があること　③乾いた咳が特徴なこと　④潜伏期間が2週間と長いことなどです。

典型的な経過は、発熱から始まり少し遅れて咳が出始め、咳は徐々にひどくなり、下熱後も2～4週間頑固な咳が続くというものです。

マイコプラズマは感染した患者さん自身が「サイトカイン」という炎症物質を出すことで肺炎を起こします。長引く咳は、免疫系が反応して「サイトカイン」が多く分泌され肺がダメージを受けた結果といえます。特に子どもや若年成人は免疫が元気なため過剰反応を引き起こして肺炎をおこしやすいのです。

家庭看護のポイント（1）

子どもが病気になった時、その子のいつもと違うところはなにか？それが診察する医師にとっては一番大切な情報となります。

そのためには保護者が**子どもの「いつもの状態」を知っておくことが重要**です。

「泣き方」「食べ方」「眠り方」「肌の張り」「活気」「お腹の硬さ」等々。

いつもの状態を知っておけば、具合が悪い時にどのように悪いのか体調が悪い時の判断材料になります。**寝かしつけの時や抱っこの時などに**その子の「いつも」を感じるようにしましょう。

阿真京子『病院に行く前に知っておきたいこと』参照

11月の感染症情報

11月中旬からA型インフルエンザが流行し始めました。11月第4週（18日～24日）の定点あたりの報告数は5.6人です。

新型コロナは1～2人/週の発生で流行はみとめられません。先月まで流行していた手足口病は11月中旬から下火になりました。

マイコプラズマ肺炎は基幹病院からの報告によるものなので実態は不明ですが、学童児で発熱、咳の患者さんの一定割合が当該疾患と推察されます。

11月の利用状況

11月の利用延べ人数は65人、1日平均利用人数は3.2人でした。年齢別では、4歳児が17人で最も多く、ついで3歳児の12人の順でした。疾患別では急性上気道炎が26人で最も多く、ついで手足口病17人、急性気管支炎の13人となっていました。その他、インフルエンザ、マイコプラズマ感染症の入室がありました。今月は学童のお子さんの入室が8人ありました。

11月下旬になり朝晩めっきり寒くなり、本格的な冬の訪れを感じます。今年も残り1ヶ月となり、慌ただしい日が続くと思いますが、体調管理にはくれぐれもご注意ください。

キッズケア青い鳥　☎52-7077